枕草子「雪のいと高うなりたるを」の接続助詞「ば」の意味の見分け方　　2020/05/11

接続助詞の区別はなかなか難しいです。文脈を読めと言われても、簡単ではありません。

まずは一般論から確認します。

「ば」はすべて順接で使いますが、まず大きくは仮定条件か確定条件かに分かれます。**順接の仮定条件は「もし～ならば」と訳す**ものですね。これは**接続で区別**するのでした。直前の語が**未然形なら仮定条件、已然形なら確定条件です。**

順接の確定条件の「ば」つまり已然形に付く「ば」はさらに３つの意味に区別されます（文法書 P90）。これは、文脈での判断となります。

１理由原因ををしめす「ば」。「～ので」と訳します。文法書では、これを「順接の確定条件」と限定して記しています。

２偶然条件の「ば」。「～すると、～たところ」と訳します。文法書は「順接の偶然条件」としているものですね。

３恒時条件の「ば」。恒時とはいつものことだという意味です。「～といつも」と訳します。文法書は「順接の恒時条件」としています。

３は数が少ないので、それほど気にする必要はありませんが、１と２はどちらかを常に考える必要があります。**前のことが原因している場合は１の理由原因**、前のことと後のことは前後関係であるだけで、**二つのことは因果関係にはなくたまたまのことだ、つまり偶然のことだという場合は、２の偶然条件**ということになります。

どちらもすでに起こったことなので、広い意味では確定条件なのですが、**文法書は**「を」「に」など、他の助詞の意味の説明との関係で、**「～ので」という意味の場合だけを「確定条件」としています。**

さて、それでは「雪のいと高う降りたるを」の「御簾を高く上げたれば」の場合はどうかを考えてみましょう。「たれ」完了の助動詞「たり」の**已然形ですから、確定条件**です。

文脈は主人中宮定子様が「少納言よ。香炉峰の雪いかならむ。」とおっしゃったので、清少納言は機転を利かせて、御格子を上げさせ、自ら御簾を上げて、雪の様子を見えるようにした。すると定子様は満足してお笑いになったというものです。

白居易の詩で「香炉峰の雪はすだれをかかげて見る」とあるのを踏まえて、大雪が降った外の様子が見たいという希望を、伝えたわけです。それは自分と同じく漢文の素養が身についた清少納言だから気がつくことであったわけで、定子様は笑って清少納言の行動に満足したわけです。

定子様の言葉が原因となって、清少納言の行動があるので、**直前にあるｄ「仰せらるれば」の「ば」は「だから」つまり原因理由（順接の確定条件）**です。**定子様の笑いは、期待された清少納言の行動によるものですが、定子様がどういう行動をしめすかは偶然の事柄**です。ですから、「だから」ではなく、**「そして」や「すると」というつながりと取るのが自然**です。

というわけで、**ｅの正解は、Ｄの偶然条件**です。